

## Win10を使い続ける！

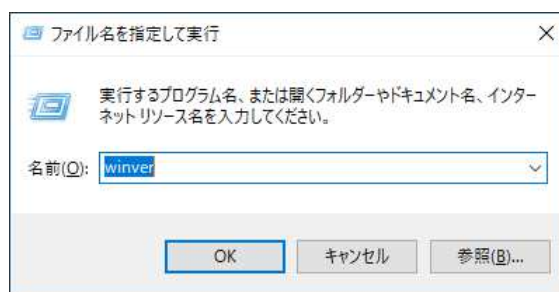
JJ1SXA/池

Win11が、2021年10月に登場した、Win10をアップグレードするのは無料のようだが、Win11はハード要件がWin10より厳しい、5年以上前の旧機種ではかなりの難関のようだ、システムの最小要件を見ると、「プロセッサ…1 GHz以上で2コア以上の64ビット互換プロセッサまたは System on a Chip (SoC)」、「メモリ…4GB」、「ストレージ…64GB以上の記憶装置」、「システム ファームウェア…UEFI、セキュアブート対応」、「TPM…トラステッドプラットフォーム モジュール (TPM) バージョン 2.0」、「グラフィックスカード…DirectX 12以上 (WDDM 2.0 ドライバー) に対応」、「ディスプレイ…対角サイズ9インチ以上で8ビットカラーの高解像度 (720p) ディスプレイ」、「インターネット接続とMicrosoftアカウント…Windows 11 Home エディションにはインターネット接続とMicrosoftアカウントが必要」、この他、「機能によっては、特定のハードウェアが必要になります」等々、私の現有機では全く対象外だ、それどころか、アップグレードを検討するのに最初から関門は狭い、分らない用語が並ぶ。

Win10の現機種を使い続けるか、Win11搭載の新機種に乗り換えるかのどちらかだが、まだ何とか使えている現機種を取り換えるには忍びない、悲しいかな年金生活者、買い替える予算も無い、今使っているモニターが駄目のようだから本当は買い替えたいところだ、私のPCは本体は「Acer」、モニターは「IO Data」の物だから、モニターが駄目になっても本体も駄目になるとは限らない、とはいえ、もうかなり古い、まあ現有機を使い続けるなら、それなりの手入れが必要だ、幸い、Win10のサポートは、2025年10月14日までということで当分の間は、セキュリティの問題は考えなくても良さそうだ、Win10のサポート切れと、私の寿命切れと、どちらが先だろう。 hi

セキュリティの問題は考えなくても良いと言っても、最新バージョンにしておくことが条件だ、というわけでバージョンを調べたら、21H1 (May 2021 Update) だ、最新のものは、21H2 (November 2021 Update) だ、早速バージョンアップしておく。

ちなみに、バージョン情報の確認は、「Windowsキー」+「R」キーで、「ファイル名を指定して実行」画面が表示されるので、「名前」欄に「winver」と入力し、「OK」ボタンを選択で、「Windows のバージョン情報」画面が表示されるので、バージョンを確認します。



バージョンアップは、「設定」画面の「Windows Update」から実行だ、具体的には、タスクバーの「スタートボタン」選択、「設定」→「更新とセキュリティ」の順に選択で「Windows

Update」の画面になる、Win11の公開があったせいか？大幅な改定は無いようで、短時間で終わった。

後はメンテナンスだが、何をすれば良いか、調べることにした、まず最初は、不要なレジストリの削除だ、レジストリーをいじるのは、素人には怖いことだが(PCに触り初めの頃誰かに言われて頭に染みついている)、パソコンの遅いを解消する一番の作業だ。

フリーソフトの「Glary Utilities」を使うと、簡単且つ確実のようだ、言語設定を「日本語に変更」、「高度なツール」の「クリーンアップ&修復」にある「レジストリーの修復」を選ぶと不要なレジストリーが検索されるので、終わったら「レジストリー修復」を押す、次に、「最適化&性能向上」にある「レジストリーのデフラグ」を選択し、開いたデフラグのウィザードの指示に従って操作すれば良いようだ。

次は、アプリの問題だが、これも、ソフトの手を借りる、「最適化&性能向上」にある「ソフトウェアのアップデート」をクリック、インストールされているアプリが検索され、最新版が公開されているものがリストアップされ、最新版の入手先ページへのリンクが用意されるので、そこからアプリ更新をすれば良いのだ。

後は、不要な常駐アプリやサービスの停止だ、そして、狭くなっているストレージの大掃除をして空き容量を増やすのだ。

ハードを強化するのも必要なことだ、私の愛機は、内蔵ストレージがHDDだが、SSDの換装もありのようだ、3.5型が乗っているが、スペーサーを使って、2.5型のSSDに交換も可能のようだ。

まあボチボチやるしか無いが、何処までできるかだが、ここで、冒頭に書いた、システムの最小要件中の「System on a Chip (SoC)」の事が気になり、一寸勉強してみた。

「SoC」とは、一個の半導体チップ上にシステムの動作に必要な機能の多く、あるいは全てを実装するという設計手法、また、その手法を使って作られたチップのことを指す言葉で、その名称は「システムを一個のチップ上に載せる」を意味する英語「System on a Chip」から来ていて、そのままエスオーシー、あるいはソックと呼ばれるようだ。

スマートフォンやタブレットの内部には、米クアルコム製のSnapdragon 801/400、韓国サムスン製のExynos 7420、あるいは米国のApple A8といったSoCが組み込まれているようだ、あるいは米インテル製で、x86アーキテクチャーをそのままSoCにしたAtom x3などもあるようです。

SoCは多くの場合、コンピュータの中核となるCPUとメモリ、ビデオチップ、I/Oといった機能を統合したチップとして設計されますが、このようなタイプのSoCはかつては「ワンチップ・コンピュータ」と呼ばれることもあったようです。

数十年前の事だが、今は出ていないが、240のメンバーで、大手メーカーでLSIの設計をやっていた、JA6EEC局からLSIの設計の話聞く機会があったことや、彼が初めて私の自宅へ来た時のことも思い出した、既に何局も来ているのを知っているので駐車場所の心配をしたが、まだまだ何台でも余裕があるよと言ったら驚いていた、実際は国有地の空き地のことだが、冗談で屋敷は広いから心配しないでと言ったのを真に受けたのだ、勿論無線交信中の話だった、10台以上の駐車スペースを有するのは大屋敷だ。hi

(2022年2月記)